

1－1．水音と土の香りがするまちをつくる

新たに追加する部分：

①骨格的な緑地構造の保全と継承

[水と緑の保全]

■「緑・農の拠点」の保全・継承

- 貴重な動植物の生息・生育の場、あるいは、日野の地形の断面を感じるような都市景観構成上の重要な樹林地である多摩丘陵一帯を「緑の拠点」として保全していきます。
- 日野の原風景であるとともに、現在でも農業が営まれ、市の産業と市民生活を支える食糧生産地として、倉沢・新井・西平山・川辺堀之内・東光寺地区を「農の拠点」として保全していきます。
- 「農の拠点」については、農地と調和した住環境の実現に向けて、開発規制等を定める田園住居地域の指定等を検討していきます。

■「緑の回廊」と「水の骨格軸」と「農の連なり」の保全・継承

- 生物の移動経路や地形の断面を感じる日野独自の景観を守り育てていくために、浅川・多摩川・程久保川・谷地川、網の目のように広がる用水を「水の骨格軸」、浅川や多摩川の氾濫源に広がる農地を「農の連なり」、そして段丘崖に線状に残る日野緑地やその下段に残る斜面樹林地や湧水を「緑の回廊」として保全していきます。

■身近な樹林地や農地の保全と継承

- 地域住民との関わりの深い、住宅地やまちなかの小さな緑である屋敷林や平地林などについても、積極的に保全していきます。
- 農地については、環境保全や防災上など、オープンスペースとして有効に機能するものを積極的に保全していきます。

■公園・里山・水辺の維持管理

- 日野の記憶と文化である緑を次の世代に継承していくため、樹林地の保全に理解と協力を求め、市民から寄付を募り、土地を買取り、保全していく緑地トラストの活用や、良好な民有緑地の公有地化等を検討していきます。

②緑と水のネットワークの形成

[水と緑の育成]

■河川沿いの緑化による「緑の帯」の形成

- 日野の地形を大きく規定し、水の骨格軸となっている浅川・多摩川・程久保川・谷地川の河川沿いの住宅地などについては、生物の移動経路となり、良好な河川景観を創出するため、積極的に緑化を推進していきます。

■幹線道路や市街地内の緑化による緑と水のネットワークの形成

- 市内をほぼ緊密に縦横に配置されている幹線道路沿道は、多くの公共施設や公園と住宅地をつなぐ重要なネットワークです。そのため、都市の安全性や魅力的な景観が創出できるよう幹線道路を積極的に緑化していきます。
- 市の大部分を占める土地利用である住宅地、数多く分布する公共施設、大規模工場・研究所、大規模団地は、積極的に緑化を推進し、市街地内の緑のネットワーク化を図ります。

●水路については、清流保全条例に基づく用水の開渠化などにより、水路景観の創出を図っていきます。

■開発行為の誘導による自然環境の確保

- これから行われる土地区画整理事業や開発行為では、既存の水系や生態系に配慮し、良好な自然環境を維持・継承できるよう指導していきます。加えて、地区計画や緑地協定等を活用し、宅地内の樹林地等の自然環境の確保に努めていきます。
- 日野市住み良いまちづくり指導要綱を、樹林地等の自然環境の確保の観点から、見直し・充実を図っていきます。

■緑に関わる人材の育成とネットワーク化

- 市内には数多くの市民団体やボランティアの方々が、みどりの保全や緑化に関する活動をしています。ボランティアや市民団体が円滑に活動でき、必要としている人が頼みやすいよう、環境情報センター窓口を通して市民参画を促進していきます。
- 樹林地や農地の地権者に対する支援を行えるよう、必要な知識や技術を身につけることを目的に、専門家を招いた勉強会や講習会を開催し、その管理や作業を手伝うことのできる専門的なボランティアの育成を行います。

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 骨格的な緑地構造の保全と継承	①骨格緑地・湧水の保全	○		・環境基本計画 ・みどりの基本計画 ・農業振興計画 ・日野市生物多様性地域戦略(H29年度策定予定)	・【継続】都市計画決定による緑地の保全(都市計画・公園緑地の指定) ・【継続】都市公園法・都市緑地保全法・都条例等の法制度による良好な緑地の保全 ・【完了】定期的なモニタリング調査による保全	緑と清流課、環境保全課
	②農地・用水の保全	○			・【継続】生産緑地の指定(●年●ha) ・【継続】農地の集約化 ・【継続】環境用水としての維持・保全の推進 ・【継続】里山の保全(百草・倉沢地区)	緑と清流課、都市農業振興課
	③公園・里山・農地・水辺水路の維持管理	○	○		●田園住居地域の検討(東光寺地区、西平山地区、川辺堀之内地区、新井地区、倉沢地区) ●農地の利活用の推進するための、緑の担い手として民間主体を指定する制度の検討、整備 ●省水力発電の実験実施	緑と清流課、環境保全課
(2) 緑と水のネットワークの形成	①河川沿いの緑化の推進	○			・【継続】公園、緑地、農地等の保全、活用に関する進捗管理 ・【継続】緑地トラストの活用 ●良好な民有緑地の公有地化の検討	緑と清流課、学校課、環境保全課
	②幹線道路及び市街地の緑化の推進	○			【完了】・職場体験の受け入れ ●水辺50選のPR	緑と清流課、学校課、環境保全課
	③水路の復元		○		・【継続】地区計画・緑地協定の締結の推進	緑と清流課
	④開発行為等の規制・誘導による自然環境の保全	○			・【継続】ウェルカムツリー等設置補助金の活用推進 ・【追加】公共施設の屋上緑化・壁面緑化の導入検討 ・【追加】街路樹キーパー制度の推進 ●清流保全条例に基づく用水の開渠化と水路景観の修景	緑と清流課、環境保全課
	⑤緑に関わる人材の育成とネットワーク化	○			・【完了】住み良いまちづくり指導要綱の充実(まちづくり条例の制定にあわせて見直し) ・【追加】まちづくり条例による緑化率の指定 ・【完了】NPO・市民団体・ボランティア等と市民をつなぐ、総合窓口等の設置検討 ・【継続】環境情報センターやカフェミハウスを通じた市民参画の促進・情報発信 ・【継続】樹林地の地権者や農業の生産者への支援を目的とする、専門性の高いボランティアを育成するための講習会・勉強会の開催 ・【追加】雑木林ボランティア講座等の開催 ・【追加】用水の維持管理を地域や市民で行う用水守制度の推進 ・【追加】公園守(公園アダプト制度)の検討	緑と清流課、環境保全課

※下線は表現等を修正した箇所

1－2. 日野人・日野文化を育むまちをつくる

新たに追加する部分：

①日野の風土と歴史を活かした景観の形成 [景観]

- 都市景観マスタープランの検討
 - 日野の骨格である都市構造の要素を強化して、一目で「日野」とわかる日野らしい景観をつくりあげること、そして、人のぬくもりを感じ市民生活に根ざした地域の景観をつくりあげることの2つの観点から、行政と市民の総意に基づく都市景観マスタープランを検討していきます。
- 景観条例の検討
 - 都市景観マスタープランを計画としての絵柄だけで終わらせることのないよう、全市や各地域の日野らしい暮らしを五感で感じるができる「生活の作法」を市民ルールとする景観条例を検討していきます。
- 暮らしの中で土地の断面を感じる景観をつくる
 - 崖線と多摩丘陵、見晴らしが良く開放感のある台地、崖線の樹林地に囲まれ浅川を軸に豊かな用水・農地に抱かれた低地、まちの方向性を感じさせる多摩川・浅川の流れなど、土地の断面を感じる景観を守り育てていきます。
- 暮らしのまとまりを大切にした景観をつくる
 - 住まいを中心とした日頃の行動範囲を「暮らしのまとまり」と見立て、この生活圏内の景観づくりを進めていきます。具体的には8地域、あるいはその中をいくつかの暮らしのまとまりに分けて「生活の景」を市民とともに点検し、良い景観を守り、悪い景観を改善していきます。
- 三大拠点と都市計画道路日3・3・2号線、日3・3・4号線等の日野の顔となる地域でみんなに誇れる景観をつくる
 - 日野・豊田・高幡不動駅を中心とする交流拠点、他9駅周辺や広域幹線道路沿いの地域など、多くの市民や来訪者が目にする機会の多い地域において、日野の顔となる景観づくりを市民との協働により進めていきます。

②歴史を活かしたまちづくりの推進 [歴史・文化]

- 先人の足跡をたどり、厚みのある日野をつくる
 - 間口が狭く奥に深い新旧甲州街道筋の土地は、その時代の名残です。私たちが今踏みしめる土で無名の人々が毎年苗を植え、米をつくりました。そこで、市民参画により、まだ埃をかぶっている歴史と文化を掘り起こし、現存するわずかな歴史環境資源の重みを共有し、その技術を脈々と今に伝える隠れた「史跡」や、「名人・達人」を見つけていきます。
 - 旧日野宿周辺の地域では、有形無形の資源をつなぎ、歴史の重みと深みと広がりのあるまちづくりを進めていきます。
- 日野の祭礼を育み、楽しむ
 - 祭礼などの地域の歳時記は、地域の文化や習俗を今に伝える無形の資源です。
 - 祭礼を育み楽しむことを通して、過去の風習を五感で感じ、地域の風土となる要素を探し出し、地域の景観に取り込み、時を超えた景観まちづくりを進めていきます。

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 日野の風土と歴史を活かした景観の形成	①都市景観マスタープランの作成	○			・【継続】日野の骨格構造を強化し、誰にもわかりやすい、市民生活に根ざした景観を創りあげるための都市景観マスタープランの検討	
	②景観条例の制定	○			・【継続】市民・民間事業者・行政が連携し、景観に配慮したまちづくりが進められるよう、全市や個別地域の「生活の作法」を盛り込んだ景観条例の検討	
	③公共・民間建築物などの施設建築物におけるの景観形成の誘導	○			・【継続】色彩・屋外広告物等の規制誘導や、建築物等の新築・改築時における事前協議による誘導	
	④地域・地区レベルでの景観形成の誘導	○			・【継続】地域・地区レベルにおいて、住民の発意に基づき、土地利用や景観を考慮しながら、特別用途地区、高度地区や地区計画等を活用しながら、建物のスカイラインや色彩を誘導	
	⑤日野・豊田・高幡不動駅の三大拠点と都市活動の軸となる広域幹線道路沿いの景観形成の誘導	○				
	⑥眺望を活かしたまちづくりの誘導	○				
(2) 歴史を活かしたまちづくりの推進	⑦地域の歴史・文化を伝える人材の発掘	○		・生涯学習推進計画	・【継続】地域の歴史を知り様々な生活の知恵や技術を持っている「○○名人」や「○○達人」、日野の生活に根ざした歴史を掘り起こし、地域住民によるまちの情報管理・運営を実施	
	⑧甲州街道及びその沿道での歴史を活かした路地のあるまちづくりの推進	○			・【継続】先人達が往来を続けてきた甲州街道、宿場町として栄えた「日野宿」の「路地」を活かしたまちづくりの推進 ・【追加】『日野宿通り周辺再生・整備基本計画』に基づく、街並みの再生整備事業等の検討・実施	
	⑨史跡の保全・継承と、地域で行われている祭礼の活性化の支援	○			・【継続】地域の様々な歴史や文化を次世代に継承するイベント等の開催・支援 ・【継続】歴史遺産の継承・緑などと一体となった文化財の保護を推進するための情報拠点の整備 ・【追加】郷土資料館研究成果等の開示 ●日野の歴史・生活文化財の再発見と交流の場としての活用（旧蚕糸試験場日野桑園等）（テーマ別意見交換会より）	
	⑩「新選組のふるさと日野」のPR	○			・【継続】新選組フェスタ、 <u>新選組まつり</u> 等のイベント開催 ・【継続】市内散策経路案内板の設置	

※下線は表現等を修正した箇所

1－3. 水と緑の自然の中で心と体の健康を育むまちをつくる

新たに追加する部分：

①自らの健康を自らでつくる環境の整備

[健康]

- 子どもが遊び、親同士が交流し、高齢者が憩う、さまざまな人との出会いや交流を生み出す場を整備する
- 地域の人の日常的な交流の場となるような身近な公園を適正に配置し、市民参画により整備していきます。
- また、水辺を活かした公園や農業公園など、多世代の交流を生み出す場として整備していきます。
- 老朽化が著しい公園や市民のニーズにそぐわない公園については、地域住民の参画により、使いやすく愛着のある公園に再整備していきます。
- 身近な自然の中で、子どもは心身を鍛え、大人は心を癒すことのできる場を保全・活用する
- 多様な生物の営みが息づく里山や水辺、農地での遊びの体験は、子どもたちの好奇心を刺激し、心と体の健康を鍛えることができます。大人にとっては、日野の豊かな自然環境の中を散策しながら、心と体を癒し、明日への活力を養うことができます。
- 日野の雑木林や里山は、子どもが入れるように管理されていないところが多く、また、市民農園も整備されていますが、利用者からの施設整備に対する不満も多くなっています。日野の里山や水辺など自然環境を保全していくことを前提として、その一部を市民が自ら自然環境を体験できる場として活用していきます。
- また、子どもや高齢者にも利用できるようユニバーサルデザインの視点で整備していきます。
- 土を耕し、育て、やがて収穫という実りを手に入れることのできる市民農園や体験農場についても同様の視点で整備し、市民一人ひとりが自然環境を享受し、心と体の健康を育むことができる日野をつくっていきます。
- 市民一人ひとりが、健康に一生を全うできるような場と機会をしつらえる
- 自らの健康を自らで創り出し、一人ひとりが元気に年を重ね、寝たきりの高齢者の少ない高齢社会を迎えるために、子どもから高齢者まで様々な年齢層の人たちが、健康づくりの運動を行うことができる場と機会をしつらえます。
- 運動施設等での運動だけでなく「歩きやすい」「自然と歩きたくなる」といった外出しやすい住宅地の環境を整え、日常生活での健康づくりを実現するため、外出機会の創出、頻度の向上、ウォーキングルートの設定等の施策を行う歩きたくなるまちづくり計画を実施します。まず歩くことに関して課題のあるモデル地区を選定し、順次回遊できるようなネットワークを整備、活用します。
- 誰もがまちなかの小さな自然を回遊できるネットワークを整備する
- 子どもたちや高齢者の移動は、徒歩や自転車を中心となっており、「場」だけではなく、移動そのものが重要な要素であるとともに、移動環境そのものも、さまざまな発見と交流の場となります。
- 子どもや高齢者など誰もが安全にまちを探索し、さまざまな人々と交流をもてるよう、目的地だけでなく、そこに至る道づくりについてもユニバーサルデザインの視点で整備していきます。
- 交通量の変化を見据えながら、十分な歩道幅員と植樹帯を確保し、夏には木陰を歩きながら、そして冬には暖かな光を浴びながら、ゆったりと散策し、車を気にせず立ち話ができるような道路環境を整備し、そして回遊できるネットワークを整備していきます。
- 自転車の利用については、安全で自転車が走りやすい環境をの整備していきます。駐輪場については、自転車等駐車場整備基本計画と、将来を見据えた自転車等駐環境整備実施戦略に基づいて整備の進捗管理を行っていきます。

②生涯を通じて学び、スポーツができる機会の充実

[生涯学習]

- 一生を通じて自らを磨くことのできる場と機会をしつらえる
- 一人ひとりの暮らしの中から生まれる「学ぶ心」を大切にし、「学ぶ心」からさまざまな活動が広がり、さまざまな日野人・日野文化が創造できるよう、多様な生涯学習活動を行う場として既存施設の有効利用や、さらに活動の盛り上げりに応じた新規施設の整備等を進めていきます。
- 多様な生涯学習活動に応じた情報の適切な提供やそれをもとにした活動の受け皿としての図書館機能を充実していきます。
- 生涯現役で人生を全うできる生き甲斐の場と機会をつくる
- 高齢者が長年の暮らしの中で培ってきた技術や知恵を地域の中で十分に活かし、地域社会での役割を担えるような仕事を創出することが求められています。
- 地域社会での高齢者の活躍は、都市の維持・管理費の負担を軽減していくことにつながります。
- 高齢者の仕事の創出と社会貢献を実現するために「高齢者の人材バンク」をつくり、それにあわせて「○○名人・達人」を発掘するとともに、地域でのニーズを適切に把握し、地域の中での役割を生み出し、適材適所への人材派遣を行うシステムを確立していきます。

(み) みどりの基本計画（緑のマスタープラン）
(歩) 歩きたくなるまちづくり事業
(子) 子どもの貧困対策に関する基本方針
(自) 自転車等駐車場整備基本計画
(将) 将来を見据えた自転車等駐環境整備実施戦略

※下線は表現等を修正した箇所

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 自らの健康を自らでつくる環境の整備	①身近な水辺・公園の新規整備と再整備	○		・(み) ・(歩)	・【継続】市民参画による、利用者の意向にそった公園の計画・設計 ・【継続】用水を公園づくりに活かすなど、市民に身近な存在となるような水辺・公園の整備	緑と清流課
			○		●水辺を生かした公園の検討 ●野球場等の一定の規模が必要とされるグラウンドや多目的広場など多摩川・浅川の河川敷利用の推進 ●農業公園の検討、市民が気軽に田んぼに触れ合える環境の整備、公園内のカフェ・直売所等の整備（テーマ別意見交換会より）	緑と清流課、文化スポーツ課
	②日野の自然を体験できる場の整備	○		・(み) ・(子)	・【継続】市民農園、体験農園の整備 ・【継続】里山・水辺・農地を活かした公園の整備・活用	緑と清流課、都市農業振興課、健康福祉部
	③レクリエーションネットワークの形成	○		・(み) ・(歩) ・かわまちづくり計画	・【継続】交流拠点と連携し、日野の様々な自然環境資源やレクリエーション資源を結ぶ歩行者を主体とした道路を整備 ・【継続】水辺を活かした散歩道の整備	緑と清流課、文化スポーツ課
			○		・【追加】多摩川・浅川“You”歩道整備計画に基づく堤防通りの整備	
			○	・(歩)	●歩きたくなるまちづくり計画の策定 ●ヘルスケア・ウェルネス戦略の一環として、消費カロリー等を知らせるウォーキングサインの設置	地域戦略室
	④ユニバーサルデザインの視点でのコミュニティゾーンの形成		○	・(自) ・(将)	・【継続】ハイキングコースの整備の検討 ●自転車の走りやすいサイクリングルート、ネットワークの検討 ●駐輪場、駐車場環境の整備と進捗管理	道路課
		○		・(歩)	・【継続】都市計画道路の未整備路線の整備による交通量の変化を見据えながら、地域別にコミュニティゾーン形成に向けた整備計画を作成し、誰もが安全にまちを探索できるまちづくりを進めています 【追加】公園出入り口のバリアフリー化の推進	
(2) 生涯を通じて学び、スポーツができる機会の充実	⑤多様なスポーツ・健康づくり需要に対応した施設整備	○		・生涯学習推進計画 ・PFI活用調査 ・(み)	・【継続】市民が、市内で自主的に気軽にスポーツを楽しむことができる総合体育館の整備や、市内の自然環境資源を活かした健康運動公園の整備 ・【完了】ふれあいホール、南平体育館の整備・新たなスポーツ拠点を活用した施策の検討 ・【継続】学校統合に伴う空学校体育施設の有効活用	企画経営課、文化スポーツ課、学校課
	⑥グラウンド施設整備の充実	○		・生涯学習推進計画	・【継続】既存の体育施設の整備と有効活用 ・【継続】学校統合に伴う空学校体育施設の有効活用	企画経営課、文化スポーツ課、学校課
	⑦生涯学習施設等の適正配置と維持管理	○		・生涯学習推進計画 ・公共施設総合管理	・【継続】生涯学習推進計画に基づき、市民のニーズや関連課の意見を踏まえながら、市民の学ぶ心を充足させるための施設機能・需要・配置等を調査し、整備計画を推進	企画経営課、生涯学習課

				<div>計画</div> <div>・公民館基 本構想・ 基本計画</div>	<div>・【継続】中核拠点としての生涯学習センター、地域 拠点としてのコミュニティセンター、市民が運営す る交流センター、身近な生活拠点としての地区セン ターについて、全体計画に基づく拠点の再編や、必 要に応じた整備・活用の推進</div> <div>・【継続】借地や借建物については、移転を含めて全 市的な見地から図書館の配置の見直し</div> <div>・【継続】中央公民館の建替えや分館開設についての 検討</div> <div>・【継続】ふるさと博物館のまちづくりの拠点として の活用を検討</div>	企画経営課
--	--	--	--	--	---	-------

2－1．安心して住み続けられるまちづくりを進める

新たに追加する部分：

①災害に強いまちづくりの推進		[防災]
<div>■地震災害に強い住まいをつくりあげる</div> <div>●阪神淡路大震災においては、老朽化した木造住宅の倒壊によって、ライフラインは寸断され、これまでの都市づくりの欠陥が露呈される結果となりました。※東日本大震災、必要に応じて熊本地震等についても追記します</div> <div>●耐震改修促進計画に基づき、特定緊急輸送道路沿道の建築物や防災上重要な公共建築物の耐震化を進めていきます。また、一時避難場所の確保や広域避難場所、又それに資する公園・農地などのオープンスペースを防災拠点として機能強化・利活用を図るとともに、災害時の避難路、物資輸送路や特定緊急輸送道路などの防災空間となる道路ネットワーク及び沿道建築物の整備を進めていきます。また、安全に避難を行い、大火の広がりを防ぐために、幹線道路沿道の緑化と不燃化を促進し、延焼遮断帯を整備していきます。</div> <div>●木造住宅が密集し、狭あい道路が多く存在する密集市街地を改善していきます。また、電気・ガス・水道などのライフラインについては、区画整理事業の実施や地区計画の導入により良好な住環境を創出していきます。</div> <div>●土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が平成29年に見直されており、崖地の安全性確保に向けた取り組みを推進するとともに、立地適正化計画等による災害危険度の高い斜面地での居住規制などを検討していきます。</div> <div>■密集した住宅地の改善による安全・安心な住まいをつくる</div> <div>●旧甲州街道や甲州街道沿道、昭和30年代に行われた民間開発地では、短冊状の細長い敷地に狭小な宅地が密集し、加えて狭あい道路や行き止まり道路が多く、防災上危険な市街地が形成されています。</div> <div>●そのため、老朽住宅の建替えと不燃化の推進、セットバックや建築物の共同化によるオープンスペースの確保、避難路となる生活道路等の整備を進めていきます。</div> <div>■水害に強い住まいをつくりあげる</div> <div>●市内では、地形構造を反映して、水害が少なからず発生しています。</div> <div>●総合的な治水の観点から、水辺環境に配慮した河川整備による流下量の確保と、樹林地や農地の保全や宅地内緑化による保水機能の維持、道路などの透水性舗装の推進や雨水浸透マスの設置推進など雨水流出量の抑制を進めていきます。</div> <div>また、浸水被害を解消するため雨水幹線の整備を推進していきます。</div> <div>■地域の主体的な防災体制を確立する</div> <div>●災害緊急時の速やかな復旧・復興を行うため、自主防災組織の設立と育成を図り、各地域での自主的な防災体制の確立を進めていきます。また、災害復旧時の資材置き場等となる防災協力農地協定の締結や、防災兼用農業用井戸の設置等についても支援していきます。</div> <div>●災害時にもっとも被害を受けやすい単身高齢者などの災害弱者については、早急に把握を行い、緊急時の通報や避難誘導支援などの体制づくりを行っていきます。</div>		
②犯罪や事故が起こりにくい環境の整備		[防災]
<div>■防犯性の高い住まいをつくりあげる</div> <div>●公共公益施設や道路、公園などを整備する際に、防犯の視点を取り入れた施設整備を行っていきます。</div> <div>●向こう三軒両隣のコミュニティの形成を積極的に推進し、地域の目を養い、あわせて地域住民のパトロールなど地域での防犯まちづくりの取り組みもあわせて進めていきます。</div>		
③環境負荷の少ない、自然に配慮したまちづくりの推進		[生活環境]
<div>■環境負荷の少ない都市基盤整備を進める</div> <div>●環境・エネルギー問題が深刻化していく中で、自然環境の保全のみならず、環境への負荷を軽減するようなまちづくりが求められており、これを実践しなければ、日野市民は「ふるさとの日野」と胸を張って答えることができません。</div> <div>●大規模団地の建替えや、住環境向上のための都市基盤整備や改修にあたっては、環境負荷の軽減、周辺環境との調和、居住環境の健康・快適性を基本とした技術の導入を推進していきます。</div> <div>●具体的には、環境負荷の小さな交通を中心としたコンパクトな生活空間の形成を進め、資源無制約のまちづくりから循環型のまちづくりへの転換を、市民・企業・行政の協働で進めていきます。</div> <div>■環境負荷の少ない住まい方を実践する</div> <div>●ISO14001の取得に代表されるように、「環境」がまちづくりの大きな柱となっています。また、「環境基本計画」でも約束されているように、ゴミの排出抑制、自然エネルギーをはじめとした新エネルギーの活用、省エネルギーなどの環境に優しい新たな暮らし方が求められています。</div> <div>●これからは、このような環境負荷の少ない住まい方や住まいづくりを新たな日野文化として創りあげ、それを実践する日野人を育成していかなければなりません。</div>		

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 災害に強いまちづくりの推進	①耐震改修促進計画による進捗管理	○		・耐震改修促進計画 ・地域防災計画 ・公共施設等総合管理計画	・【追加】耐震改修促進計画に基づき、特定緊急輸送道路沿道建築物・住宅・特定建築物(民間)・防災上重要な公共建築物の耐震化を進めます。 …特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化補助 …木造住宅耐震事業に関する補助(診断・設計・改修) …分譲マンションの耐震化に関する補助	
	②公共建築物の耐震性の向上の推進	○			・【継続】耐震診断の実施や、計画的な耐震補強の実施(防災上重要な公共建築物の耐震化率93.5%)	
	③都市計画道路の整備	○			・【継続】避難路及び延焼遮断帯を形成し、災害に強い都市構造を構築するため、都市計画道路の整備を促進し、沿道の不燃化と緑化を推進します ・【追加】特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化補助	
	④木造密集市街地等の改善	○			【完了】日野本町四丁目密集住宅市街地整備促進事業 ・【継続】災害時にも安全な住まいづくりについての知識を普及・啓発し、的確なアドバイスを行うための耐震改修や建替えの相談会の開催	
	⑤崖地の安全性確保と土砂災害への対応	○			【追加】 ・崖地等の防護工事の実施（東京都と連携） ・土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域の住宅の建築の抑制、パトロール範囲の拡充 ・避難訓練等を地域防災計画に位置づけ実施 ・土砂災害ハザードマップ(仮)の作成・配布	防災安全課、下水道課
			○		●立地適正化計画による災害危険度の高い斜面地等の居住規制	
	⑥水害への対応力の強化	○		・地域防災計画 ・環境基本計画	・【継続】清流保全条例による雨水流出の抑制ルールへの促進 ・【追加】浸水想定区域ハザードマップ(仮)の作成・配布 ・【追加】避難ルートの更新	緑と清流課、防災安全課
			○		●雨水幹線の整備	下水道課
	⑦地域防災計画の更新	○		・地域防災計画	【完了】地域防災計画の策定（平成25年改訂） 地域防災計画の改訂（平成30年改訂に向け準備中） ●新南平体育館の新設による避難所の追加 ●緊急医療救護所の対象地の追加 ●北河原公園を大規模救出救助活動拠点として追加	防災安全課
	⑧防災体制の確立支援	○		・地域防災計画 ・公共施設等総合管理計画 ・高齢者福祉総合計画 ・障害者福祉総合計画	・【継続】災害後の市民・企業・行政の行動や役割、約束事を記載した、実用性のある地域防災計画を策定します（ハンディ版 地域防災行動計画） ・【継続】災害直後の防災体制を充実し、災害を最小限に抑えるために、地域の防災体制を確立するための支援を行います …消防団組織の統合・充実 …自主防災会のあり方検討 …災害時要援護者避難支援事業に基づく体制づくり …災害を想定した要介護者のリスト作成及びGISによる要介護者の分布の確認	防災安全課、高齢福祉課、障害福祉課、健康課
			○	・地域防災計画 ・農業振興計画	●防災協力農地協定の締結（災害時の復旧資材置き場の確保） ●防災兼用農業用井戸の設置支援 ●地区住民による事前復興計画等の策定検討（被災した住宅の移転先用地の検討等）(テーマ別意見交換会より)	防災安全課、都市農業振興課

(2) 犯罪や事故が起 こりにくい環境 の整備	⑨防犯組織の 設立支援	○			<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】 向こう三軒両隣のコミュニティを育成し、地 域の監視の目を養い、防犯パトロールなどを行う地 域での防犯まちづくりを育成 …自主防犯組織のあり方検討 …自主防犯組織の組織育成のための交付金 …警察署との連携による防犯アドバイザーの派遣 	防災安全 課
	⑩空き家、空き 地対策によ る防犯力の 向上	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日野市空 き住宅等 対策計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・【追加】 空き家、空き地が増加する地区に対して、エ リアマネジメントの観点を導入することで、地域の 防犯力を高める施策を推進します。 	
(3) 環境負荷の少な い、自然に配慮 したまちづくり の推進	⑪下水道整備 事業の促進	○			<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】 河川や用水などの水質の向上を図るため下水 道整備を促進（●%実施） …区画整理事業に併せて污水管整備を実施 …市内全域において雨水管を整備 …下水道施設維持補修に関する計画の策定 	下水道課、 区画整理 課
	⑫環境共生住 宅の建設促 進	○		<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本 計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】 ※要確認 環境に優しいまちづくりを実践す るため、環境に配慮した省エネルギー住宅の建設及 び改善を推進します …<u>長期優良住宅・太陽光パネル(エコ住宅)の促進</u> 	環境保全 課
	⑬二酸化炭素 の排出の低 減	○		<ul style="list-style-type: none"> ・新エネル ギービジ ョン ・日野市地 域公共交 通総合連 携計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】 交通需要管理の構築 ・公共交通システムの整備 ・都市計画道路整備の促進等による渋滞の解消 ・<u>多摩産材の使用</u> ・ 	
	⑭公共・民間施 設の緑化の 推進	○		<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本 計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】 生け垣設置に関する補助金の活用 ・【継続】 地区計画・緑地協定の推進 ・【完了】 一定規模以上の建築物等の新築や開発時への 緑化の義務づけ等の条例の検討 ・【追加】 まちづくり条例緑化規定による緑化推進 	
	⑮ゴミの減量 化・資源化の 推進	○		<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本 計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】 ゴミの排出抑制 ・【継続】 排出源での減量化・資源化の推進 ・【継続】 資源回収等への助成 ・【継続】 ディスポーザーの使用禁止の普及・啓発活動 の実施 ・【追加】 H31クリーンセンター建替えに向けて、容器 包装プラスチックの拡大回収の検討 	ごみゼロ 推進課、環 境保全課
	⑯その他	○			<ul style="list-style-type: none"> ・【追加】 周辺環境に配慮した市営火葬場の検討 	

※下線は表現等を修正した箇所

2－2．地域の特性を活かした、持続可能なまちづくりを進める

新たに追加する部分：

①人口減少社会を見据えた都市基盤整備		[基盤整備]
■孫が住みたいと思う環境をつくりあげる		
●農地や用水、そして雑木林などが残るかつての日野の農村地帯の面影を残す地域では、自然環境が豊かな一方で、農村集落の構造を現在まで引き継ぎ、行き止まり道路や狭あい道路が数多くあり、ミニバスなどの運行や緊急車両の通行ができない状況となっています。また、このような地区では高齢化も進んでおり交通ネットワークは重要な課題となっています。		
●高齢者が子どもや孫の世代と、農村風景や自然環境の残っている住み慣れた地域に住み続けることができるよう、現道を活かした土地区画整理事業を進め、生活道路の整備と下水道整備をあわせて進めていきます。		
●農の拠点として位置づけた地区においては、農地と宅地が共存する土地区画整理事業の推進を図るなど、それぞれの地域の特徴を活かしたまちづくりを進めていきます。また、地区計画についても積極的に活用し、地域の秩序あるまちづくりを進めていきます。		
②成熟した既存住宅地の維持・改善		[既成市街地]
■住と工が共存した住まいをつくる		
●現在の日野の工場では、実際にモノづくりをしている工場と、研究・サービス業務を主とする工場が存在します。そのため、業種・業態において用途地域を一律に指定するのではなく、騒音や悪臭などの環境基準において各工場を評価し、地域地区の指定や地区計画等を活用し、適正な土地利用を誘導していきます。		
●また、近年の工業系土地利用及びその縁辺部における高層建築物の建設による企業と市民との衝突を避け、住環境の悪化を未然に防止するため、工業系の土地利用を定めた地域にあつては、土地利用の純化を進め、生産・操業環境を重視する環境整備を進めていきます。		
●一方、既に立地している各企業の事業所は、住宅都市にある工場にふさわしく、公害の防止や緑化推進など住工共存のまちづくりを進めていきます。		
●日野の産業を支えてきた工場と、家族の安らぎの場である住まいが共存していくために、工業地域及び準工業地域及びその周辺部において、企業及び住民の合意に基づくルールを定め、住工共存のまちづくりを進めていきます。		
●明確に先の見通せない、大規模工場跡等の敷地における土地利用については、予め土地利用について特別協議が必要な地域と指定しておくことで、実際に土地利用の変更が行われる事前に、所有者、周辺市民、行政等関係者で十分協議を行います。		
■集まって住むことの楽しさを享受できる住まいをつくる		
●計画的に建設された一団の中高層住宅団地については、居住者を第一に考え、東京都、東京都住宅供給公社、都市基盤整備公団等の関係機関と調整・連携しながら、地域の緑のオアシスとなり、団地内居住者のみならず地域住民へも開かれた、コミュニティ活動の拠点となる住宅団地の形成を図ります。		
●建替えにあたっては、施設の老朽化、高齢者世帯の増加等を勘案し、単一コミュニティが形成されないよう多様な世帯が住まうことのできる、新たな社会・地域のニーズに対応した住宅団地として再整備していきます。		
●住宅団地の再整備に当たっては、都市計画法による一団地の住宅施設を地区計画に移行する国・東京都の運営方針をふまえ、地区まちづくり計画等の手続きを介した地区計画への移行を検討します。		
●低層住宅地内に立地する住宅団地については、周辺の低層の住環境と調和した良好な住宅市街地の形成に寄与するようにします。既存不適格マンションなど用途地域の方針と実態が異なる土地では、土地利用方針の見直しを進めていきます。		
●立地誘導が困難な場合には、周辺の自然環境への影響が少なく、良好なスカイラインを有し、周辺の住環境と調和した住宅市街地の形成に寄与するような建替えを誘導していきます。		
■昼間は立ち話をして、夜には虫の声を聞きながら休める静かな住まいをつくりあげる		
●都市計画道路や生活幹線道路の整備を推進し、その整備に伴う幹線道路の交通量を勘案しながら、歩道の拡幅や住宅地内の一方通行規制、歩行者専用道路の整備など、道路機能の見直しを行い住宅地内における通過交通量を低減していきます。		
●路面の凹凸舗装や狭さく、ハンプなどを設け、車の速度や車両数を最小限に押さえ、加えて、地域の人が誇りに思えるような地区の美観や環境の改善に配慮することにより、歩行者の安全性を最優先に考える歩行者の地域交通マネジメントである『コミュニティゾーン』の形成を進めていきます。		
③成熟した都市基盤を守り支える維持管理の推進		[維持管理]
●日野市住宅マスタープラン（平成27年改訂）をふまえ、空き家の適正管理を含めた良好な住宅ストックの形成と適切な維持管理の推進や高齢者世帯、子育て世帯のニーズに応じた住環境の整備等を進めていきます。		
●空き家に関しては、日野市空き住宅等対策計画の策定（平成28年）、日野市空き住宅等の適切な管理及び活用に関する条例の制定（平成29年）を行っており、管理がされず近隣に迷惑をかける空き家を無くすこと、不動産流通の促進すること、地域に資する空き家の整備費補助及び空き家活用の促進等を進めていきます。		

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 人口減少社会を見据えた都市基盤整備	①都市基盤整備の推進	○		・住宅マスタープラン ・みどりの基本計画	・【継続】豊田南地区、及び西平山地区、万願寺第二地区、東町地区、川辺堀之内地地区の土地区画整理事業を推進し、道路・公園・下水道等の都市基盤整備を進めていきます ・また、あわせて地区計画を導入し、地域のまちづくりのルールを定めていきます ●新井地区に関しては、農地と宅地が共存できるような土地区画整理を推進します	区画整理課、緑と清流課、都市農業振興課
	(2) 成熟した既存住宅地の維持・改善	○		・工業振興基本構想 ・企業立地支援制度 ・立地適正化計画	・【継続】地区計画等による住工混在地域の土地利用整序、純化の検討を進め、生産・操業環境を重視する環境整備 ・【追加】工業、準工業地域に操業する企業に対し、企業立地支援、産業創出施設設置、貸し施設設置等の企業に対して奨励金支援の実施 ・【継続】大規模工場等への特別工業地区の指定検討 ●学校授業との連携によるものづくり体験等、住工が共存するまちづくりを身近に感じることのできる地域の指定 ●立地適正化計画による工業地域への住宅建築の抑制	産業振興課
			○		●住民の意向調査に基づいた地域のまちづくり（南平台等）（小規模な区画整理や地区計画の導入）	
			○		●既存不適格マンションなど、用途地域の土地利用方針と実態が異なる土地の、土地利用方針の見直し	
(3) 成熟した都市基盤を守り支える維持管理の推進	③末基盤整備住宅地への対応		○		●【完了】新井団地の建替えの決定及び新井団地地区計画の決定 ●【完了】高幡台団地の73号棟の除却及びその跡地の土地利用方針の決定(高幡台地区地区まちづくり計画の決定) ・【継続】市営・都営・UR団地の建替え及びリニューアールと、それにあわせた周辺の住環境整備 ・【追加】市営住宅（長山団地、城址ヶ丘団地の廃止も含めた）今後のあり方検討推進・実施 ・【追加】一団地の住宅施設から地区計画への移行を検討	企画経営課、財産管理課
	④既存不適格マンションの是正		○	・日野市住宅マスタープラン ・市営住宅長寿命化計画 ・日野市公共施設白書		
(3) 成熟した都市基盤を守り支える維持管理の推進	⑤大規模団地の建替え・リニューアルの検討	○		・日野市住宅マスタープラン ・市営住宅長寿命化計画 ・日野市公共施設白書	・【完了】新井団地の建替えの決定及び新井団地地区計画の決定 ・【完了】高幡台団地の73号棟の除却及びその跡地の土地利用方針の決定(高幡台地区地区まちづくり計画の決定) ・【継続】市営・都営・UR団地の建替え及びリニューアールと、それにあわせた周辺の住環境整備 ・【追加】市営住宅（長山団地、城址ヶ丘団地の廃止も含めた）今後のあり方検討推進・実施 ・【追加】一団地の住宅施設から地区計画への移行を検討	企画経営課、財産管理課
	⑥計画的な維持管理	○		・公共施設総合管理計画	【追加】 ・道路施設の法定点検の実施 ・道路改修計画による道路の計画的なリニューアル ・道路舗装補修計画による道路の計画的継続的な維持補修 ・橋梁長寿命化修繕計画 ・その他、街路灯修繕計画、道路標識修繕計画による道路施設の更新	道路課

		○		<div>・日野市住宅マスタープラン</div> <div>・日野市空き住宅等対策計画</div>	<div>【追加】</div> <div>・日野市空き住宅等対策計画による進捗管理</div> <div>・空き住宅等情報のデータベースの構築</div> <div>・関係団体との連携を強化し、不動産流通を促進する</div> <div>・地域に資する空き住宅等の整備費の補助</div> <div>・管理がされず近隣に迷惑をかける空き家(特定空き家)を無くす</div> <div>●空き住宅等の利活用を促進する</div> <div>●空き地活用の進捗管理</div> <div>●気軽に立ち寄れる交流の場としての空き家・空き部屋活用の検討（テーマ別意見交換会より）</div> <div>●空き家等の活用を促進するNPO団体等の育成と運営支援（テーマ別意見交換会より）</div>	
			○	<div>・公共施設白書</div> <div>・公共施設等総合管理計画</div>	<div>●図書館や中央公民館の建替え、耐震補強、バリアフリー化等</div> <div>●文化スポーツ課及び生涯学習課所管施設の大規模改修計画の策定（南平体育館、市民会館、七生公会堂などについて計画的に改修を実施）</div>	企画経営課

※下線は表現等を修正した箇所

2－3．多様化する暮らし方を選択し、実現できるまちづくりを進め、新たに追加する部分：

①希望する働き方や暮らし方ができる環境の整備		[新たな暮らし方]
■子育てしやすいまちづくりの推進		
●子ども家庭支援センターの組織的な対応力の強化等を図り、子育て世代の多様なニーズや相談に対応していきます。		
●地域での子育てを支援する、子育て広場の独自性を生かした運営を支援するとともに、拠点駅周辺だけではなく、多世代が集まって子育てを支援するような交流の場や、子育て世代の在宅ワークを支援する施設等を各地域に確保し充実させていきます。		
②ライフステージに合わせて選択できる多様な住まいの提供		[住み続ける仕組み]
■市内で住み替えができるような多様な住まいをつくりあげる		
●2015年から2040年にかけて、市の人口は微減傾向ですが、人口の内訳から少子・高齢化傾向があり、市全体でも高齢化率が40%になる地域も出てきます。		
●そのため、高齢者が安心して住み続けられる住宅・住環境を整備するとともに、多様な年齢層が日野市内で住み替えができるよう、多様なライフステージに対応した住まい方の選択肢を提示します。		
特に、市内の住み替えやシェアハウスや民泊のような新しい居住形態が促進できるような仕組みを検討していきます。		
■年をとっても、日野に住み続けられるシステムを構築する		
●高齢社会においては、高齢者は資産があっても、年金収入では生活できないなどの理由から、子どもに引き取られたり、老人ホームに移ったりするなど、住み慣れた日野を離れ、市外へ転居するケースが増えていくことが考えられます。		
●高齢者対応の住環境整備を実施しても、高齢者への経済的支援なくしては、長年の経験の上に成り立っている知恵や技術をもっている高齢者の流出に歯止めをかけることはできません。高齢者の流出は、日野人・日野文化の衰退を意味します。		
●そのため、高齢期を迎えても日野に住み続けることができるよう、高齢者が住んでいる住宅・土地等の資産を担保にして、生活費や介護費等を金融機関や自治体から融資を受け、死亡後、担保となった住宅・土地等を売却して精算するリバースモーゲージ制度等の検討を行っていきます。		
●また、自分のライフステージあわせて丘陵部の戸建住宅から低地部あるいは台地部の共同住宅等へ移り住むなど、市内でスムーズに住み替えを行うことのできる仕組み等を検討していきます。		

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性	予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
	継続	新規			
(1) 希望する働き方や暮らし方ができる環境の整備	○		・生涯学習推進計画 ・保健福祉計画 ・新しいコミュニティづくり白書 ・新！ひのっ子すくすくプラン ・子どもの貧困対策に関する基本方針	・【追加】子ども家庭支援センターの組織的な対応力の強化等（虐待対応の体制強化・スキルアップ、要保護児童対策地域協議会による連携強化、相談員のスキルアップ等） ・【追加】地域子育て拠点機能の強化（子育てひろばの独自性を生かした運営支援、子育て支援者の登録制度の運用等） ・【追加】空き家等を活用した無料の自習スペース（中高生向け）の提供（子どもの貧困対策に関する基本方針より ※要確認）	地域協働課、子ども家庭支援センター
		○		●子育て支援・交流スペース、世代を限定しないサロン、在宅ワーク支援施設等の充実（テーマ別意見交換会より） ●交流施設周辺の街灯や防犯設備の充実（テーマ別意見交換会より） ●市内企業と連携した教育環境づくり（テーマ別意見交換会より）	
	○		・工業振興基本構想 ・商業振興計画 ・農業振興計画	・【追加】商工会による日野商業まちづくりプラットフォームとの連携、観光まちづくりプラットフォームの策定（予定）	産業振興課、企画経営課、地域戦略室、観光振興課
(2) ライフステージに合わせて選択できる多様な住まいの提供	○		・住宅マスタープラン ・三世代がよりそうくらし基本方針	・【完了】住宅マスタープランの改訂 ・平成27年に住宅マスタープラン改訂済。戸建て住宅、団地、空き家等居住に関する住宅施策については住宅マスタープランによる進捗管理を実施 ・【追加】多世代居住の推進（三世代がよりそうくらし基本方針より） ●シェアハウス・民泊等の新しい居住形態を促進する仕組みの検討 ●実家や家族と同居できる住まい方の促進（テーマ別意見交換会より）	企画経営課
	○			【継続】リバースモーゲージの検討 ●自分のライフステージあわせて、市内で住み替えを行うことのできる仕組みの検討	地域戦略室、企画経営課、環境保全課
		○		●日野市生涯活躍のまちづくりによる施策の展開 ●住み慣れた地域で生き、看取られる、暮らし・福祉・医療の展開（多摩平の森の医療福祉連携ゾーン、平山、高幡台団地） ●地区まちづくり計画の策定支援	

※下線は表現等を修正した箇所

①人・もの・情報がスムーズに行き交う道路網の充実

[道路]

- 都市の骨格となる都市間連絡道路（幹線道路）の充実
- 広域幹線道路である日3・3・2号線、日3・3・4号線を整備・活用することにより、市街地内での通過交通の排除、産業関連の大型貨物車両の分離を図ります。
- 丘陵部と低地部をつなぎ、市民にサービスを提供する日野環状線の整備
- 丘陵部においては、自然景観の保全に配慮しながら、低地部と丘陵部の主要地域を結ぶ環状線を活用し、地域への主要なサービスを提供する道路としていきます。
- また、この道路は、周辺地域から、日野を通過する交通を集散させる役割を担います。
- 地域間を結ぶ地域サービス幹線道路の整備
- 日常の移動や生活を支える役割を担う幹線道路については、広域幹線道路や日野環状線などと接続し、生活の利便性を向上させるようネットワークを形成していきます。
- 広域交通機能を果たしている甲州街道、北野街道、川崎街道での通過交通を排除し、沿道の生活に密着した道路としていきます。甲州街道については、かつての街道筋の歴史を感じる歩行者を中心とした道路として整備していきます。
- 関係機関と連携して交通問題に取り組んでいく
- 駅前や交差点周辺において、道路交通を阻害する迷惑駐車は、交通渋滞を招く大きな原因となっています。こうした迷惑駐車による渋滞を解消するため、交通の大きな障害になる箇所を中心に違法駐車取締り強化を関係機関に要請していきます。
- 地域公共交通会議の関係機関と連携して違法駐車や渋滞対策等に取り組んでいきます。
- 住宅地内の歩行者中心の道路をリニューアルしていく
- 住宅地の中では、路面の凹凸舗装や狭さく、ハンプなどを設け、車の速度や車両数を最小限に押さえ、加えて、地域の人誇りに思えるよう地区の美観や環境の改善に配慮した、歩行者や地域住民の安全性を最優先に考える『コミュニティゾーン』の形成を進めていかなければなりません。
- さらに、通過交通の流入の排除や、生活道路網と有機的なネットワークを形成するため、幹線道路を補完する生活幹線道路を整備していきます。
- また、ミニバス、ワゴンタクシー、路線バス等の防災上幅員が狭く緊急車両の通行などが困難と思われる生活道路については、その幅員の確保を地域住民と協議・連携して進めていきます。
- 交流拠点における交通体系のリニューアル
- 楽しく、安心して買い物ができるよう、バス・タクシーを除く一般車両の通行規制や歩車の分離、外部から日野を訪れる人々にも誇れる優れた歩行者主体の道路にリニューアルしていきます。
- 環境に配慮した交通体系の見直しから、自動車に乗りなくとも快適に暮らすことのできるまちの創出を行います。そのために公共交通機関の利用促進や自転車の利用促進のための環境整備等を行っています。
- 歩行者優先の道路づくりと歩行者優先道路の整備
- 歩行者主体の道路へと機能転換が予測される道路については、一方通行化、歩道・自転車道の設置、植栽帯の設置、加えてコミュニティの活性化の観点から、安心して立ち話ができるようポケットパークやベンチ等の設置も行い、歩行者を中心とした道路にリニューアルしていきます。
- 候補路線として、交流拠点と、市内の主要な自然環境資源である日野緑地や浅川をつなぐ歩行者優先道路の整備を進めていきます。
- 安全で快適な歩行者空間の整備
- 歩行者が中心の道路づくりを進めていくために、幹線道路をはじめとして、歩道と車道の分離を推進し、幅員によっては、植栽帯を整備し、歩行者空間の安全性と快適性を確保していきます。
- また、歩道幅員は、左右同幅員にこだわらず、必要な幅員を順次確保していきます。
- 日野市ユニバーサル推進条例に基づき、歩道の段差解消や視覚障害者が安全に歩ける点字ブロックの設置など、ユニバーサルデザインの視点ですべての道路づくりを進めていきます。
- 各駅周辺では、関係団体と協議の上、交通バリアフリー法に基づき、重点地区の計画を整備し、着実に進めていきます。

表 目標とする道路機能などのイメージ

道路の段階構成		道路機能	イメ ージ	幅員イメージ	備 考
生活道路	区画道路	・各宅地に接続する最も身近な生活道路であり、歩行者優先を原則とする	・自動車が5 km/h以内で通行するよう工夫を凝らしていく道路 ・安心して子どもが遊び、立ち話ができる道路	4 m	
	主要区画道路	・歩車共存道路であり、一方通行が望ましい。 ・火災などの際に、停車車輛などがあっても緊急車両が通行できる道路 ・概ね250m間隔での配置が望ましい		6 m	
	生活幹線道路（主要生活道路）	・身近な交通の中心となる道路、生活サービスの自動車通行の道路であり、歩	・歩車の分離や散歩道としての環境整備を積極的に	8～12m	

		行者に安全な道路 ・概ね500m間隔での配置が望ましい	行っていく道路		
幹線道路	地域サービス道路（補助幹線道路）	・バス交通などの市内の地域間交通を支え、安全な生活圏を構成する基本となる道路 ・概ね1～2 km間隔での配置が望ましい		12～16m	
	都市間連絡道路（幹線道路）	・広域的な都市間交通を主とした道路	・歩道内の自転車通行帯と歩行者通行帯の分離を推進	16m以上	

②暮らしを支える公共交通網の充実

[公共交通]

- バスが市民の足となるような環境をつくる
- 省資源・省エネルギーへの対応、これから確実にやってくる高齢社会への対応として、交通弱者である高齢者や身障者に対するきめ細かな交通サービスの提供を行うため、その代表的な交通機関であるバス交通について積極的な見直しを行い、バスサービスの向上と利用の促進を図っていきます。
- 地域公共交通総合連携計画をふまえ、幹線バス路線網を補完し地区ごとのきめ細かいバスサービスを行う密度の高いネットワーク化を図った支線バス網の整備等を検討していきます。
- また、1日乗車券や乗継割引等、利用促進のための仕組みの検討や、バスラッピング等の啓発イベントなど、利用促進のための普及啓発もあわせて行っていきます。
- 支線バスとしては、丘陵地の細い道や、住宅街の狭い道でも自由に乗り入れ、ドアトゥドア的なサービスが可能となるようミニバスやワゴンタクシーの効率的な運行、デマンドバスの導入を検討していきます。
- また、タクシー運転業者等と協議を行い、地域の実状に合った事業スキームを検討し、公共交通空白地帯の削減を図っていきます。

- 12の駅、緊密な幹線道路網等、利便性の高い交通環境をもっと利用し、向上させる
- 日野には、緊密な幹線道路網、3つの鉄道の乗り入れと12の駅、バス交通網など、多くの社会資本が蓄積されています。交通渋滞解消や効率的な都市活動を支える視点から、あらゆる公共交通機関を効率的に利用できるようにすることが重要です。
- また、交通渋滞により引き起こされる都市機能や都市環境・地球環境への影響は深刻となっています。今後、持続的発展が可能な都市を実現していくためには、既存の社会基盤を有効活用していくとともに、自動車使用のあり方を抜本的に見直ししていくことが必要です。
- そのため、主に行政が取り組む道路整備などの「容量の拡大」だけでなく、自動車の効率的な利用や使用の抑制、さらには公共交通等への利用転換など、日野における交通改善の基本的な考え方やその仕組みを総合的・体系的に考える交通需要マネジメント（TDM）を検討していきます。

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1)人・もの・情報がスムーズに行き交うような道路網の充実	①市内をスムーズに移動できる交通ネットワークの整備	○	●	・地域公共交通総合連携計画	○【継続】日3・3・2号線及び日3・3・4号線の整備促進・活用 …日野の都市の骨格となる日3・3・2号線及び日3・3・4号線の活用を検討 ○【継続】日野環状線の活用 …沖積低地部・台地部・丘陵部をつなぐ、地域サービス及び周辺市からの交通を集散させる日野環状線の活用を検討 ○【継続】地域間を結ぶ幹線道路の整備 …日3・4・17(市整分は完了見込み、一部橋梁部、栄町付近の直接買収区間は要都協議)、日3・4・24号線の整備を推進します ●日3・4・12の見直し ○【継続】生活幹線道路の整備 … <u>区画整理によるバス交通の充実</u> など地域利便性の向上や、住宅地内での通過交通を排除するため、生活幹線道路の整備を推進 ●万願寺第三土地区画整理事業の見直しに向けた東	区画整理課、道路課

					<p>京都との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ●万願寺第三土地区画整理事業の見直しに向けた代替案の検討(路線の振り替え、川崎街道の拡幅、バス路線の見直し等) <p>【完了】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第四次事業化計画、優先整備路線の事業化 ○【継続】地域公共交通会議による関係機関との協議を行い、交通政策に連携して取り組む 	
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・自転車等駐車場整備基本計画 ・将来を見据えた自転車等駐環境整備実施戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ●自転車空間(専用レーンや駐輪場等)の設置 ●自転車シェアリングの仕組みづくり（テーマ別意見交換会より） 	道路課
	②交流拠点及び生活拠点など駅周辺地域における交通体系の見直し	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日野駅改良及び駅周辺地区整備計画 ・ユニバーサルデザイン推進計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】少子・高齢社会、資源・エネルギー問題を考えると、駅の重要性は非常に高い。そのため、必要に応じて交流拠点及び生活拠点の日野駅周辺地区交通計画を検討し、実施していきます（自動車交通量の抑制・駐車場の整備等） ・【継続】日野駅改良及び駅周辺地区整備計画の推進 ・【追加】ユニバーサルデザイン推進計画に基づくまちづくりの推進 ・【追加】豊田駅や高幡不動駅周辺の駐車場に関する都市計画の見直しの検討 ●車椅子も安全に通行できる歩道の整備（テーマ別意見交換会より） ●高齢者や障がい者が利用しやすいバス停周辺の環境整備やバス車両の改善（テーマ別意見交換会より） 	道路課
	③道路空間のバリアフリー化	○			<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】誰もが安心して外出でき「歩く」ことを中心としたまちづくりを進めていくため、道路空間のバリアフリー化を推進します ・市役所通り等の旧基準道路の有効幅員の拡幅 	
	④駅へのアクセスや通学路等を勘案した歩行者主体の道路整備・活用	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉計画 ・歩きなくなるまちづくり事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】日3・3・2及び日3・3・4号線など広域交通を処理する都市計画道路の整備、活用により、他の幹線道路において自動車交通量が減少する路線が生じます。その交通量が減少した路線を歩行者を中心とした道路にリニューアルしていきます 	
(2) 暮らしを支える公共交通網の充実	⑤バス路線網の充実・整備	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通総合連携計画 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域公共交通総合連携計画の改訂 ●計画に基づくバス路線の検討 ●利用促進のための仕組みの検討(1日乗車券、乗継割引等) ●バス路線拡充に伴う道路整備の更新 ●利用促進のための普及啓発(路線図の改訂やCO₂削減のバスラッピング等の啓発イベントの実施) ・【継続】交通弱者である子供や老人、障害者に対するきめ細かなサービスを行うためのバス路線網の充実・整備 ●南北方向の公共交通の利便性の向上（テーマ別意見交換会より） 	環境保全課、道路課、環境保全課
	⑥ワゴンタクシー及びコミュニティバスの路線の最適化	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】丘陵地や住宅街の狭い道でも自由に乗り入れ、ドアトゥドア的なサービスが行えるようミニバスやワゴンタクシーの運行の効率化 ・【継続】デマンド交通の導入を検討 	

					<ul style="list-style-type: none"> ●タクシー運転業者と協議を行い、地域の実状に合った事業スキームの検討 ●交通空白地帯の削減もしくは路線本数の拡充 ●自動運転車の導入、環境整備 ●ミニバスの利用状況等に応じて、運行ルートや本数等を市民・市・運行事業者で検討する仕組みの検討（テーマ別意見交換会より） 	
	⑦交通需要マネジメント調査の実施	○			<ul style="list-style-type: none"> ・【継続】自動車の効率的な利用や使用の抑制、さらには公共交通等への利用転換など、日野における交通改善の基本的な考え方やその仕組みを総合的・体系的に考える交通需要マネジメント調査を実施 	

※下線は表現等を修正した箇所

新たに追加する部分：

2－5．一人ひとりが個性を輝かせ、認めあい、地域で支え合う環境をつくりあげる

①地域コミュニティの継続支援

[地域コミュニティ]

- 地域コミュニティやエリアサークルの活動の場と機会を確保していく
 - 8つの地域毎に地域の拠り所となり、地域コミュニティやエリアサークルの活動拠点となる場と機会を、交流センターを含めて最低1地域に1箇所確保していきます。また、この活動拠点は、地域住民による運営を前提とします。
 - 市民と行政が連携し、地域について考え、地域毎の活性化に向けた課題を考え対策を検討し、実行に移すためのきっかけづくりの場である地域懇談会を開催し、アクションプランを実施していきます。
 - 地域活動の拠点となる施設等については、住宅地内の空き家等の活用や、小学校の統廃合によって生じる空き教室など既存施設の活用も視野に入れ、地域活動の拠点となる場を確保していきます。
- 地域に眠る名人・達人を見つけだす
 - 地域にはたくさんの人的資源が眠っています。戦後の高度経済成長期を支えてきた企業人や子育てを終えた主婦の方々など、優秀な技術を身につけた人々がたくさんいます。
 - 第二の人生を送る中で、これまで関わることの少なかった地域に社会参画の場を設けることにより、優れた技術や経験を地域に還元してもらうことが期待されます。そこでどのような人材がどのような得意技を持っているかを探していくことから始めていきます。
- 目的や役割を持って地域で活動するエリアサークルの集合体からなる地域コミュニティへ再編する
 - 従来の自治会などの地域コミュニティ主体の組織から、目的や役割を共有するエリアサークルの集合体への転換を進めていきます。
 - 行政は、地域レベルで活動する多様なエリアサークルと、全市あるいはより広域的に活動するテーマコミュニティとをつなぐ仕組みを構築していきます。

②地域コミュニティが中心となる福祉対策の推進

[福祉]

- 高齢社会への対応
 - 福祉分野のマスタープランである地域福祉計画をふまえて、地域ごとのまちづくりと福祉対策との連携を図っていきます。地域福祉計画では、地域包括支援センターを核とした在宅医療・在宅介護サービスの充実、地域住民による高齢者の支援体制の充実、高齢者が健康で自立した生活を営むための支援の充実等を柱としています。
※第2次高齢者福祉総合計画を改訂中(平成29年11月策定予定)
 - 地域の中の身近な場所で、高齢者が気軽に利用できるふれあいサロン等の拠点の整備・運営を支援するとともに、より地域に開かれた多様な高齢者の集いの場を確保していきます。
- ひとりぼっちでも心配のない環境をつくりあげる
 - 地域で発見された名人・達人や、地域コミュニティ、エリアサークルの方々などを中心として、市民による地域の維持・管理・運営を行っています。
 - 以上の方々が集まる一つのまとまりとして、地域懇談会等を位置づけ、地域の維持・管理・運営を行っていくことを検討します。

重点事業

※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 地域コミュニティの継続支援	①地域コミュニティの継続支援	○		・新しいコミュニティづくり白書	・【完了】地域懇談会の設置 ・【追加】自治会活動に関する補助 ・【追加】市職員による地域サポーター制度 ●【追加】地域懇談会・アクションプランの実施 …地域間同士の情報共有の場及び共有ツールの提供 (地域懇談会の開催・地域かわら版の発行)	地域協働課
	②地域コミュニティの継続を実現させるための場の整備		○	・新しいコミュニティづくり白書 ・住宅マスタープラン ・空き住宅等対策計画 ・公共施設総合管理計画	・【継続】地域活動拠点の整備 ・【追加】市民の森ふれあいホールの多目的利用の推進 ●既存施設の活用（小学校の統廃合による空き教室の活用等）も踏まえ地域活動拠点を整備 ●空き家・空き地を活用した地域コミュニティの拠点の整備	地域協働課
	③地域活動拠点の運営に関する検討	○			・【継続】地域活動拠点を整備するに当たり、利用する地域住民での管理・運営の実施の可能性を調査します ・【追加】地区センター等地域の拠点の在り方に合わせた場の更新	企画経営課、地域協働課
(2) 地域コミュニティが中心となる福祉対策の推進	④地域福祉計画の推進		○	・高齢者福祉総合計画 ・障害者福祉総合計画 ・地域福祉計画 ・新しいコミュニティづくり白書	・【完了】地域福祉計画の策定 ●地域包括支援センターの機能充実・複合化の検討 ●隣近所の連携を強化した地域包括ケアシステム・在宅介護・在宅医療の推進 ●障がい者の自立施策の充実 ●福祉サービスの充実（生活拠点） ●住民、企業含めた民生委員や見守りサポーターによる支援	地域協働課、高齢福祉課、障害福祉課、福祉政策課
	⑤適切な福祉サービスが受けられる環境の整備		○	・高齢者福祉総合計画	・【追加】地域に開かれたオレンジカフェ（認知症カフェ）等の推進 ●身近な地域で高齢者が気軽に利用できる南新井ふれあいサロン等の拠点の整備・運営支援 ●さわやか健康体操、楽・楽トレーニング体操、パワーリハビリテーション、いきいきウォーキング等、介護予防施策の継続と身近な活動の場の検討	高齢福祉課、健康課

※下線は表現等を修正した箇所

新たに追加する部分：

3－1．買い物やレクリエーションなど毎日の暮らしを楽しむまちをつくる

①ライフスタイルに合わせて自由に買い物ができる環境の整備		[商業]
<div>■歩いて楽しむ商業、車で利用できる商業、歩車共存の商業の棲み分けを行う</div> <div>●交流拠点（日野、豊田、高幡不動駅）においては、来訪者が多く、また、さまざまな人々が住み、働き、遊ぶ重層的な空間形成を目指し、歩行者を中心としたまちづくりを進めていきます。</div> <div>●そのため、市民との協議をもとに駅周辺地域の整備方針を示し、計画的な整備・誘導を進めます。</div> <div>●歩車の分離を効率的かつ合理的に実施するため、駐車場の集約化を進めていきます。このため、敷地ごとに駐車場設置を義務づける現行の仕組みの見直しを検討し、地区計画等により地域ごとに駐車場を計画的に誘導していくなど、ブロック単位での駐車場の付置を検討していきます。将来的にはフリンジパーキングの整備等を検討していきます。</div> <div>●生活拠点については対面販売のある地域密着型の商業地を目指します。</div> <div>●日3・3・2号線等の整備により、交通量の減少が予想される日3・4・1号線（甲州街道）は、かつての宿場町の面影を再生し、日野駅や甲州街道駅とのつながりを大切にした、買い物などを歩いて楽しめる道路空間として再整備していきます。</div> <div>●身近な地域の中で買い物ができる環境の充実、拠点の役割に応じた商業環境の整備に向けて、立地適正化計画等によって必要な都市機能の誘導を図っていきます。</div>		
<div>■来訪者が気軽に立ち寄れる日3・3・2号線沿道での日野製品のショーケースづくり</div> <div>●日野のレクリエーション資源や自然環境資源、そして農産物資源をつなぐ日3・3・2号線については、広域的な都市軸であるため、日野の産業や地域の活性化に寄与しうる産業を誘導する土地利用とし、日野製品のショーケースづくりを進めていきます。</div> <div>●日野製品のショーケースづくりに寄与する観光・文化・レクリエーション施設等の立地誘導を図っていく際には、段階的な土地建物利用のゾーニングを行うなど、きめ細かな都市計画を行い、周辺の自然・生活環境と調和するよう十分に配慮していきます。</div> <div>●加えて、施設立地の際には、十分な駐車場の確保及び駐車車両が表通りに滞留しない道路のつくり方について検討します。</div>		
②内外から人が集まりにぎわう拠点づくりの推進		[観光]
<div>■週末型レクリエーションに対応した商業地づくり</div> <div>●日野には、高幡不動尊、多摩動物公園、百草園など、広域的な週末型レクリエーション施設が立地しています。これらは依然として集客性が高く、多摩都市モノレールの開通によって、より一層の求心性を期待できます。</div> <div>●しかしながら、周辺の観光型商業地は、道路などの基盤整備も受け皿が十分ではなく、商店街も来訪者をもてなす空間としては、魅力に欠けているのが現状です。</div> <div>●このため、高幡不動駅、百草園駅、モノレール多摩動物公園駅については、観光型商業地としての育成を進めていきます。</div> <div>●また、京王線動物公園駅については、モノレール多摩動物公園駅への移行が考えられるため、観光資源としての活用方を検討し、京王電鉄へ提案していきます。</div> <div>●商工会による観光まちづくりプラットフォーム等と連携し、日野市の地域資源である水路や緑地等の自然と歴史を活かした観光施策を推進していきます。また、多摩地域の各市との連携により、多摩地域全体の観光の活性化を図っていきます。</div>		

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) ライフスタイルに合わせて自由に買い物ができる環境整備	①身近で買い物ができる環境の充実	○		・商業振興計画	・【完了】商業振興計画の策定 ・【追加】まちづくり条例による大規模施設の建築制限等や協議の仕組みの導入 ・【追加】商工会による日野商業まちづくりプラットフォームとの連携	産業振興課
	②拠点に応じた商業環境の整備		○		●立地適正化計画による都市機能の誘導	
(2) 内外から人が集まりにぎわう拠点づくりの推進	③観光資源の活用	○		・商業振興計画	・【継続】動物園線の活用 …京王動物園線をラッピング車両とし、車内に市内小学生や市民からの絵画や写真を展示するなど、観光振興を図ります	観光振興課
			○		●商工会による観光まちづくりプラットフォームとの連携による観光施策の進行管理（予定） ●高幡、日野、百草地区の観光事業の推進 ●日野交流館の観光拠点としての整備 ●新選組のふるさと歴史館・日野宿本陣のバリアフリー化 ●多摩地域の各市との連携による多摩地域全体の観光の活性化 ●日野の歴史・生活文化財の再発見と交流の場としての活用（旧蚕糸試験場日野桑園等）（テーマ別意見交換会より） ※再掲	
	④地域振興の拠点となる場の整備	○		・農業振興計画 ・農のあるまちづくり計画	・【継続】週末型レクリエーションや情報発信など地域振興の拠点となる農作物の直売所等の整備 ・JAとの連携 ※農業振興計画の改訂（平成29年度予定）	都市農業振興課

※下線は表現等を修正した箇所

新たに追加する部分：

3－2．日野のまちづくりと共に歩んできた産業とこれからも共に歩む

①工業を活性化するまちづくりの推進		[工業]
<div>■工業を支える自動車交通などの効率化を進める</div> <div>●新たな広域幹線道路の整備推進等による中央自動車道、国道16号バイパスや首都圏中央連絡道路へのアクセスの改善、及び情報インフラの整備支援などを進めています。</div> <div>●特に、通過交通を処理する日野環状線、日3・3・4号線、日3・3・2号線の整備を促進するとともに、工場周辺の道路整備も進めています。</div> <div>●また、物流を支える交通拠点として、バスターミナル等の交通拠点の整備を検討していきます。</div>		
<div>■企業市民と市民との対話を進める</div> <div>●企業活動を広く市民に伝える活動や、企業ノウハウを市民や地域に還元する活動を支援し、開かれた技術や人材交流の機会づくりを推進します。</div> <div>●周辺地域への影響が懸念される開発行為の事前協議の義務づけなどをもりこんだまちづくり条例の検討を行っています。</div> <div>●各事業所の企業活動PRのための看板や施設等の整備を推進しつつ、見学会やイベントも開催し、それら機会を通じて地域との交流を図り、理解を深め、協調を図っていきます。</div>		
②住宅都市の特性を活かした新たな産業の育成		[新たな産業]
<div>■情報通信技術の進展に対応した基盤整備を進める</div> <div>●SOHOや労働集約型のサービス産業等、住宅市街地内において経営することのできる新たな産業が増加しています。</div> <div>●これらの産業は従来型の産業と異なり、拠点的な産業地の建設を必要とせず、情報通信のための基盤が整えば、住宅地がそのまま新たな産業地となり、日野の住宅都市としての特性を最大限に活かせる産業として期待されています。</div> <div>●そこで、住宅都市ならではの新産業が共存するまちづくりを進めるため、高度情報・通信を支える社会基盤整備を推進し、日野の新たな仕事を創出していきます。</div> <div>●また、情報インフラ整備などの環境整備や複合的な土地利用を健全に行うための性能基準をあわせて検討し、新たな産業育成へ向けた土地利用用途を準備していきます。</div>		
<div>■都市型サービス産業の増加に伴う駅周辺へ立地誘導</div> <div>●少子高齢社会にあっては生活利便性の高いことが求められます。特に交流拠点は、既存の都市機能の集積状況や公共交通の要衝としての機能が高いことから、生活利便性という点では、日野市内の中で最も優れています。</div> <div>●そのため、緩やかな土地利用規制により、医療・福祉・教育・文化などの都市型サービス産業におけるビジネスチャンスのもととして位置づけ、日野の産業の活性化を図っていきます。</div> <div>●大規模工場跡地等についての今後の土地利用については、関係事業者と活用方針について協議を進めていくほか、今後の土地利用が不透明で特別協議が必要な地域として明示するなどによって、望ましい土地利用の誘導を図っていきます。</div>		

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 工業が活性化 するまちづく りの推進	①産業活動の基 軸となる物流 を支える交通 基盤の整備	○	●	・地域公共 交通総合 連携計画	・【継続】都市計画道路日3・3・2号線、日3・3・4号線の 整備促進・活用 ●（仮称）バスターミナル等交通拠点整備の検討	産業振興課
	②ものづくり企 業との連携・ オープンイノ ベーション、 研究開発	○		・工業振興 基本構想	・【完了】工業振興基本構想を策定 ・【継続】工業機能の多様化、高度化・効率化を図り、 公害への影響の緩和、情報の共有化を進めるため、 工業の集団化、共同化の調査研究、異業種グループ への支援を行います	産業振興課
	③事業者と市民 との交流の場 づくり	○		・工業振興 基本構想 ・企業立地 支援制度	・【継続】企業活動を広く市民に伝える活動や、事業 者ノウハウを市民や地域に還元する活動を支援し、 開かれた技術や人材交流の機会づくりを推進しま す ・【完了】産業連携センターPlanT の開設。PlanTに よる産業連携交流 ・【完了】生活課題解決のためのリビングラボの実施	産業振興課
(2) 住宅都市の特 性を活かした 新たな産業の 育成	④医療・健康と の連携による 産業振興	○			・【追加】ヘルスケア・ウェルネス戦略の推進 ・【追加】多摩平の森地区まちづくり事業と豊田駅南 口の土地区画整理事業との一体的な駅周辺まちづ くりの推進	地域戦略室
	⑤工場移転によ り生じる余剰 地の活用		○		●大規模工場跡地など、今後の土地利用が不透明で特 別協議が必要な地域の明示	企画経営 課、産業振 興課
	⑥情報インフラ の整備	○			・【継続】SOHOや労働集約型のサービス産業等、情 報通信技術を活かした産業の活性化を図るため、高 度情報・通信を支える情報基盤整備を進めます ・情報通信環境としてのwifi環境の充実・整備	企画経営 課、観光振 興課、情報 システム課
	⑦交流拠点にお ける都市型サ ービス産業の 育成	○			・【継続】交流拠点を含む駅周辺は、非常に利便性が 高い場所であるため、交流拠点への都市型住宅を積 極的に整備し、あわせてサービス産業の集積	企画経営課

※下線は表現等を修正した箇所

3－3．農のある暮らしを次世代へつなげる

新たに追加する部分：

①農地とその周辺環境の維持		[農地]
<div>■みどりの基本計画及び農のあるまちづくり計画の推進</div> <div>●みどりの基本計画に位置づけられている「農の拠点と農の骨格軸」については、農業としての農地保全を進めるため、生産緑地の拡充を積極的に行っていきます。</div> <div>●加えて、農のあるまちづくり計画に基づき、土地区画整理事業予定地等における農地の集合換地や生産緑地の追加指定についても同時に行っていきます。</div> <div>●都市緑地法や都市公園法、生産緑地法等の改正による新規施策として、生産緑地面積要件の緩和による小規模農地の集約、田園住居地域の指定による農地の開発規制等、都市農地の保全・活用を図っていきます。</div> <div>■環境資源としての農地の保全と活用</div> <div>●農地が持つ多面的な機能の一つである、環境保全や防災上など、オープンスペースとして有効に機能するものについては、環境資源として積極的に保全していきます。</div> <div>●また、この農地については、体験農園や体験果樹園等へ積極的に整備し、環境教育や市民のレクリエーションの場として活用していきます。</div> <div>■農業体験の推進</div> <div>●子どもたちが親の仕事ぶりを学べる数少ない職業の一つである農業の特徴を活かし、子どもたちの社会学習や大人の生涯学習機会としての農業のあり方やモノづくりの技を次世代に継承する場づくりについて検討します。</div> <div>●また、経験と技術力を必要とする職能である農業を市民が支援していくため、勉強会や講習会等を開催し、専門性の高いボランティアの育成を進めていきます。</div>		
②生産者と消費者とが協力して次世代へつなげる農業の確立		[農業]
<div>■産業としての農業を育成しよう</div> <div>●農業者の立場を理解した農地保全のための制度や支援方策、NPOによる農業を視野に入れた新たな農業経営の在り方などを、多面的な視点から検討していきます</div> <div>●新規就農希望者が農業に関わることで円滑な世代交代を促進するようなNPOによる農業経営などの仕組みをつくっていきます。また、日野ブランドなど農業技術の高度化による産業基盤の強化などについても考えていきます。また、税の減免についても考えていきます。</div> <div>■とれたての作物を買うことのできる場をつくり、ネットワーク化し、育てよう</div> <div>●日野の農産物の販売や加工を可能とし、流通経路の拡大に寄与し、さらに、農業体験を通して、農業の普及啓発から、後継者育成までの教育も含めた総合的な農業活性化の拠点となる「ファーマーズセンター」を整備し活用していきます。</div> <div>●また、生産者の顔が見え、安全・安心でおいしい作物を、自分の好みに応じて選択することのできる共同販売所の設置をJAとともに進めていきます。</div> <div>●都市公園法や生産緑地法等の改正による新規施策として、生産緑地地区内の直売所や農家レストランの設置等、農業を身近にする交流の場の整備を進めていきます。</div> <div>■地産地消の原則をつくろう</div> <div>●日野でとれた作物を日野で消費することができる地産地消の農産物の日野ルールを検討していきます。</div> <div>●その第一歩として学校給食での利用率増加の推進や作物MAPなどの作成による農産物のPRを行い、市民の消費活動とつなげていきます。</div>		

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 農地とその周辺環境の維持	①農業振興計画による農業施策の推進		○	・農業振興計画 ・みどりの基本計画	・農業振興計画の改訂（平成29年度予定） ●都市緑地法、都市公園法、生産緑地法等の改正による新規施策の検討 ●田園住居地域の検討(東光寺地区、西平山地区、川辺堀之内地区、新井地区、倉沢地区) ・【継続】 農地保全の新制度などを検討する場の設置 ・【継続】 農業を継続・支援していくための仕組みの検討 ・【継続】 緑のマスタープランの策定	都市農業振興課 都市農業振興課
	②生産緑地の保全と拡充	○	○	・農業振興計画 ・みどりの基本計画（緑のマスタープラン）	●生産緑地指定要件の緩和 ・【継続】 農の拠点及び農のつらなりにおいて重点的 生産緑地を指定します ・【継続】 良好な営農条件を確保するため、その周辺の農地についても生産緑地の指定を拡充します	
	③分散している農地の交換・集約化の推進	○		・農業振興計画	●農地を保全する土地区画整理事業の推進	都市農業振興課、区画整理課
	④体験農園の整備、活用	○		・農業振興計画 ・みどりの基本計画	・【追加】 農業振興計画による進捗管理 ・【追加】 落ち葉・剪定枝チップ等を利用した循環型農業の推進	都市農業振興課
	⑤農業を学ぶ学習の場づくり	○		・農業振興計画	・【継続】 子どもたちの社会学習や環境学習、大人の生涯学習機会として、農業についてのあり方などを考え、学ぶことのできる学習の場を設置 【継続】 ・農業体験イベントの拡充 ・日野農産物の学校給食への利用 ・食育推進計画における食育の推進 ・学校と農業者の連携による学童農園の充実	
	⑥援農ボランティアを育成するための勉強会・講習会の開催	○		・農業振興計画	・【継続】 農業という経験と技術力を必要とする職能である農業を市民が支援していくための勉強会や講習会を開催し、専門性の高いボランティアを育成 【継続】 ・農の学校の継続 ・援農体制の構築 ・農業後継者・Uターン就農者の農業技術向上と交流支援 ・女性農業者の経営参画・起業支援	
(2) 生産者と消費者とが協力して次世代へつなげる農業の確立	⑦ファーマーズセンターの活用	○		・農のあるまちづくり計画	・【継続】 地場消費を増大させ、農家と市民との交流の促進と多品目にわたる新鮮な農産物の供給の場として、ファーマーズセンターや共同直売所を活用 ・【追加】 都市農業シンポジウムの開催	
	⑧共同直売所等の整備		○	・みどりの基本計画	●生産緑地内の直売所・農家レストランの設置（テーマ別意見交換会より） ・【継続】 商店会のイベントの中で地域農家と連携した即売の継続	
	⑨地産地消の推進	○			【継続】 ・地産地消の日野ルールの検討 ・日野農産物の学校給食への利用 ・日野農産物のPR	

※下線は表現等を修正した箇所

3－4．一人ひとりが地域を支えるまちづくりを進める

新たに追加する部分：

①地域の魅力や価値の維持・向上

[エリアマネジメント]

■住民や事業者等による主体的なまちづくりの推進

●地域別構想で提案されたプロジェクトをきっかけとして、地域主体のまちづくりを進めていきます。行政は、地域の市民やコミュニティ組織が主体的に関わるまちづくりを支援していきます。

■これまでの活動や人とのつながりを大切に育てていく場と機会をつくる

●これまでの地域懇談会の活動を継続し、具体のまちづくりを進めていく必要があり、その気運も高まりを見せています。

●現在の地域懇談会の方々が中心となり、より多くの参加を募り、地域のまちづくり活動の場として地域懇談会の継続を支援していきます。

テーマ別意見交換会についても、全市的なまちづくり活動の場として継続的な支援を検討していきます。

●丘陵住宅地等、今後の人口減少や高齢化への対応が課題となる地区においては、地区まちづくり計画の策定等を通して、地域のエリアマネジメントの担い手の育成を支援していきます。

②地域資源や人材を活かしたコミュニティの創出

[コミュニティビジネス]

■コミュニティビジネスを創出し、地域サービスの再構築を図る

●地域のニーズを満たすため、人的資源を組み合わせる新しいサービスを考えます。必要に応じて資金や技術的な面での支援を行い、コミュニティビジネスの創出による地域サービスの再構築を図っていきます。

●シルバー人材センターについては、派遣業サイトへの登録や介護や女性による保育など事業を拡大し、高齢になっても地域で活躍できる機会の充実を図ります。

重点事業 ※【完了】：実績の完了したもの 【継続】：事業が継続しているもの 【追加】旧計画策定後に実際され継続しているもの

施策の方向性		予算化の指針		関連計画	事業内容	関係課
		継続	新規			
(1) 地域の魅力や価値の維持・向上	①住民や事業者等による主体的なまちづくりの推進	○	○	・生涯学習推進計画	・【継続】 地域懇談会を地域のまちづくり活動の場として支援 ・【継続】 地域住民主体のきめ細かなまちづくりを進めていきます ●テーマ別意見交換会をまちづくり活動の場として支援（テーマ別意見交換会より） ●丘陵住宅地等における地区まちづくり計画の策定支援、計画に基づくエリアマネジメントの促進 ●丘陵部の空き家対策と若い世代の居住を促進する施策の検討（テーマ別意見交換会より） ●地域住民による、地域コミュニティ維持活動（近隣の困りごと対応等）への支援（テーマ別意見交換会より）	地域協働課
	(2) 地域資源や人材を活かしたコミュニティビジネスの創出		○	・生涯学習推進計画 ・保健福祉計画 ・高齢者福祉総合計画 ・まち・ひと・しごと創生総合戦略	・【継続】市内の在住、在勤、在学者の活躍を目指して、人材バンクの設置を行う。 ・【継続】特に高齢者が長年培ってきた知識・知恵・技術を活かし、高齢者の仕事の創出と社会貢献を実現するために適材適所への人材派遣を行う ●シルバー人材センターの事業拡大（派遣業サイトへの登録、早朝からの業務、介護や女性の保育等）、会員増強 ●地域住民や NPO で高齢者等を送迎するサービス等の検討支援（テーマ別意見交換会より）	高齢福祉課、生涯学習課、地域戦略室 地域協働課
	④名人・達人探しと地域通貨の導入検討	○			・【継続】地域の活性化を図るための、地域通貨の導入の検討 ※地域通貨：「自分ができることは進んで行い、逆に自分ができないことは他人にお願いする」といった人と人の助け合いを基盤とするボランティア活動等を評価する新しい貨幣を創造し、その善意を交換する仕組み ・【継続】地域通貨の導入に向けて、「自分ができること」のリストを作成するための「名人・達人の発掘事業」の検討	地域協働課
	⑤行政サービスの再検討	○			・【継続】これまで行ってきた行政サービスを再考し、新たな行政サービスを展開します ・行政サービスのうち、市民で実施可能なものについて検討し、加えてビジネスとして成立するものについては事業化を検討します	地域協働課

※下線は表現等を修正した箇所